

二〇一七年度 入学試験問題

文学部A方式I日程・経営学部A方式I日程・人間環境学部A方式
GIS(グローバル教養学部)A方式

二限 国 語 (60分)

〈注意事項〉

- 一 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないこと。
- 二 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
- 三 志望学部・学科によって解答する問題が決まっている。問題に指示されている通りに解答すること。指定されていない問題を解答した場合、採点の対象としないので注意すること。
- 四 マークシート解答方法については下記の注意事項を読みなさい。

マークシート解答方法についての注意

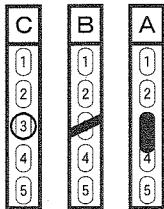
マークシート解答では、鉛筆でマークしたものを機械が直読読みとって採点する。したがって、解答はHBの黒鉛筆でマークすること(万年筆、ボールペン、シャープペンシルなどは使用しないこと)。

一 記入例 解答を3にマークする場合。

(一) 正しいマークの例



(二) 悪いマークの例



枠外にはみださないこと。

○でかこまないこと。

- 二 解答を訂正する場合は、消しゴムでよく消してから、あらためてマークすること。
- 三 解答用紙をよごしたり、折りまげたりしないこと。
- 四 問題に指定された数よりも多くマークしないこと。

● 文学部を志望する受験者は、問題〔二〕〔三〕〔四〕に解答せよ。

● 経営学部・人間環境学部・GIS(グローバル教養学部)のいずれかを志望する受験者は、問題〔二〕〔三〕〔五〕に解答せよ。

〔二〕 つぎの各問いに答えよ。

問一 つぎの文中の傍線部A～Dのカタカナを漢字に直して解答欄に記せ。

コモン^Aの先生に促されて、部長は議論の行く末がケネン^Bされていた部活動のあり方について、部員から様々な意見が出されたケイイ^Cに触れながら、結論を出すのがナンコウ^Dしていることを説明した。

問二 〔I〕のA～Dの空欄と同じ一字の漢字が入るものを〔II〕のA～Eからそれぞれ選び、解答欄の記号をマークせよ。

〔I〕 A 彼は、上司の説教を□耳東風と聞き流した。

B キャンプ場で、仲間みんなで雑□寝する。

C 教授の研究室は、汗□充棟ただならぬ様子だった。

D 幼い頃、親類の家で乱暴□藉を働いたことがある。

〔II〕 A あの国は、政変が起きて改革派が□耳っている。

I あまり下□評の高くなかったチームが、決勝戦まで進んだ。

ウ 非難に耐えかね、彼は反撃の□煙を上げた。

E 社長と副社長は、入社以来の水□の交わりだそうだ。

(二) つぎの文章を読んで、後の問いに答えよ。

一二、一三世紀の西欧で、キリスト教的な秩序のもとに大学が生まれます。当時、中世都市の全ヨーロッパ的ネットワークとして拡大した西欧中世社会において、異なる価値がぶつかり合うなかで「普遍的な価値とは何か」が問われたからです。そこで価値の普遍性を探究していく機関が、キリスト教社会にも、近代社会にも必要でした。だからこそ八〇〇年以上にわたり大学が存続してきたわけで、この普遍性は人類学的なものです。大学が普遍的な価値の探究に向かうことが、めぐりめぐって人々のためにもなるという考え方を、ヨーロッパは受け入れてきたのです。

人類学的な価値とは、今日ではグローバルな価値ということになりますから、大学はグローバルな価値と国民社会を媒介していく役割を担います。いわばメディアです。単純に政府や国民に従う役割ではあり得ません。人類性とか普遍性、グローバル性は、大学にとって根本的なものです。つまり大学は、今日的な用語で言うならば、何よりも「グローバルなエクセレンス(優秀なこと、長所)の実現」に奉仕しなければなりません。たとえ国に批判的で、国民的な通念とは対立しても、真にクリエイティブに地球的な価値を創造していくことができる研究者や実践家を育てることが、大学の社会に対する意味ある責任の果たし方なのです。

このように、大学の知が「役に立つ」のは、必ずしも国家や産業に対してだけとは限りません。神に対して役に立つこと、人に対して役に立つこと、そして地球社会の未来に対して役に立つこと——大学の知が向けられるべき宛先にはいくつものレベルの違いがあり、その時々の政権や国家権力、近代的市民社会といった臨界を超えています。

そしてこの多層性は、時間的なスパンの違いも含んでいます。文系の知にとって、三年、五年ですぐに役に立つことは難しくいかもありません。しかし、三〇年、五〇年の中長期的スパンでならば、工学系よりも人文社会系の知のほうが役に立つ可能性が大です。ですから、「人文社会系の知は役に立たないけれども大切」という議論ではなく、「人文社会系は長期的にとっても役に立つから価値がある」という議論が必要なのです。

そのためには、「役に立つ」とはどういうことを深く考えなければなりません。概していえば、「役に立つ」ことには二つの次元があります。一つ目は、目的がすでに設定されていて、その目的を実現するために最も優れた方法を見つけていく目的遂行型です。これは、どちらかというと理系的な知で、文系は苦手です。たとえば、東京と大阪を行き来するために、どのような技術を組み合わせれば最も速く行けるのかを考え、開発されたのが新幹線でした。また最近では、情報工学で、より効率的なビッグデータの処理や言語検索のシステムが開発されています。いずれも目的は所与で、その目的の達成に「役に立つ」成果を挙げます。文系の知にこうした目に見える成果の達成は難しいでしょう。

しかし、「役に立つ」ことには、実はもう一つの次元があります。たとえば本人はどうしていいかわからないのだけでも、友人や教師の言ってくれた一言によってインスピレーションが生まれ、厄介だと思っていた問題が一挙に解決に向かうようなときがあります。この場合、何が目的か最初はわかっているのですが、その友人や教師の一言が、向かうべき方向、いわば目的や価値の軸を発見させてくれるのです。このようにして、「役に立つ」ための価値や目的自体を創造することを価値創造型と呼んでおきたいと思います。これは、役に立つと社会が考える価値軸そのものを再考したり、新たに創造したりする実践です。文系が「役に立つ」のは、多くの場合、この後者の意味においてです。

古典的な議論では、ドイツの社会学者マックス・ウェーバーによる「目的合理的行為」と「価値合理的行為」という区分があります。そこでは、合理性には「目的合理性」と「価値合理性」の二つがある、と言われました。「目的合理性」とは、ある目的に対して最も合理的な手段連鎖が組み立てられていくことであるのに対し、「価値合理性」は、何らかの目的に対してというよりも、それ自体で価値を持つような活動です。

ウェーバーが『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』で論じたことは、プロテスタンティズムの倫理は価値合理的行為であったのだが、その行為の連鎖が結果的にきわめて目的合理的なシステムである資本主義を生み出し、やがてその価値合理性が失われた後も自己転回を続けたという洞察です。そこで強調されたのは、目的合理性が自己完結したシステムは、いつか価値の内実を失って化石化していくのだが、目的合理的な行為自体がその状態を内側から変えていくことはできない、と

いう暗澹たる予言でした。ウェーバーは、そのように空疎になったシステムを突破するのに、価値合理性やカリスマといったシステムへの別の介入の回路を考えようとしていたわけですから。

このウェーバーの今なお見事な古典的洞察に示されるように、X。したがって目的や価値軸そのものが変化したとき、一挙に役に立たなくなりますが。

価値の軸は、決して不変ではありません。数十年単位で歴史を見れば、当然、価値の尺度が変化してきたのがわかります。たとえば、一九六〇年代と現在では、価値軸がすっかり違います。一九六四年の東京オリンピックが催されたころは、より速く、より高く、より強くといった右肩上がりの価値軸が当たり前でしたから、その軸にあった「役に立つ」ことが求められていました。新幹線も首都高速道路も、そのような価値軸からすれば追い求めるべき「未来」でした。超高層ビルから湾岸開発まで、成長期の東京はそうした価値を追い求め続けました。ところが二〇〇〇年代以降、私たちは、もう少し違う価値観を持ち始めています。未長く使えるとか、リサイクルできるとか、ゆっくり、愉快地に、時間をかけて役に立つことが見直されています。価値の軸が変わってきたのです。

すべてがそうというわけではありませんが、概して理系の学問は、与えられた目的に対して最も「役に立つ」ものを作る、目的遂行型の知であることが多いと思います。そして、そのような手段的有用性においては、文系よりも理系が優れていることが多いのも事実です。しかし、もう一つの価値創造的に「役に立つ」という点ではどうか。

目的遂行型の知は、短期的に答えを出すことを求められます。しかし、価値創造的に「役に立つ」ためには、長期的に変化する多元的な価値の尺度を視野に入れる力が必要なのです。ここにおいて文系の知は、短くても二〇年、三〇年、五〇年、場合によっては一〇〇年、一〇〇〇年という、総体的に長い時間的スパンのなかで対象を見極めようとしてきました。これこそが文系の知の最大の特徴だと言えますが、だからこそ、文系の学問には長い時間の中で価値創造的に「役に立つ」ものを生み出す可能性があるのです。

価値の尺度が劇的に変化する現代、前提としていたはずの目的が、一瞬でひっくり返ってしまうことは珍しくありません。

そうしたなかで、いかに新たな価値の軸をつくり出していくことができるか。あるいは新しい価値が生まれてきたとき、どう評価していくのか。⁴ それを考えるには、目的遂行的な知だけでは駄目です。価値の軸を多元的に捉える視座を持った知でないといけない。そしてこれが、主として文系の知なのだと思います。

なぜならば、新しい価値の軸を生んでいくためには、現存の価値の軸、つまり皆が自明だと思っているものを疑い、反省し、批判を行い、違う価値の軸の可能性を見つける必要があるからです。経済成長や新成長戦略といった自明化している目的と価値を疑い、⁵ そういった自明性から飛び出す視点がなければ、新しい創造性は出てきません。ここには文系的な知が絶対に必要ですから、⁵ 理系的な知は役に立ち、文系的なそれは役に立たないけれども価値があるという議論は間違っていると、私は思います。

(吉見俊哉「文系学部廃止」の衝撃」より。文章を一部改変した)

【注】 *マックス・ウェーバー

一八六四〜一九二〇年。政治から宗教を含む社会全般に鋭い分析を加え、一九〇四〜五年に発表した論文『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』が代表作として知られる。

問一 傍線部1「この普遍性は人類的なものです」とあるが、大学はその「普遍性」をどのように育んできたか。その説明として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 人類的な価値がグローバルな価値となった今日、近代社会で大学が追い求めてきた価値の普遍性は、地球全体に適用されるものになった。

イ 中世ヨーロッパで生まれた大学は、異なる価値のおつきり合いを超えて、人類にとってためになるような普遍的な価値を追究してきた。

ウ 西欧の中世社会で育まれた大学は、八〇〇年以上もの時間を超えて人類とともに歴史を歩み、現在では人類にとって普遍的な遺産となっている。

エ キリスト教社会で生まれ、近代社会を通じて存続してきた大学は、今日までヨーロッパにとっての普遍性を人類全体のものだと錯覚してきた。

オ 社会と普遍的な価値を結びつける役割を担ってきた大学は、政府や国民が要望するような価値に奉仕することで人類に貢献してきた。

問二 傍線部2「この多層性」とあるが、それは大学の知にどのような性質をもたらしているか。その説明として適切なものをつぎの中から二つを選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 大学の知が、神の秩序や人間社会、また地球の未来といった、水準の異なる様々なものにとって有用であること。

イ 大学の知が、その時々々の政治権力や市民社会といった、時代で変化するものに合わせて有益でありつづけたこと。

ウ 大学の知が、常に所属する政府や国民に批判的でありながら、それを超えた人類や地球にとって価値をもつこと。

エ 大学の知が、三年や五年、三〇年や五〇年といった定期的な区切りのなかで、普遍的な価値を証明してきたこと。

オ 大学の知が、すぐ成果の出るものだけでなく、長い年月をかけて成果の出るものまでを含めて成立していること。

カ 大学の知が、八〇〇年以上の時間のなかでその価値を試され、様々な時代で成果を出す責任を果たしてきたこと。

問三 傍線部3「役に立つ」ことには二つの次元があります」とあるが、その「二つの次元」を説明したものととして最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 一つ目の次元にあるのは、ある特定の国家や産業にとって「役に立つ」ことであり、もう一つの次元にあるのは、その国家や産業が所属する人類や地球全体にとって「役に立つ」ことである。

イ 一つ目の次元にあるのは、目的を遂行して理系の知の有用性を証明する「役に立つ」ことであり、もう一つの次元にあるのは、問題を解決して文系の知の有用性を証明する「役に立つ」ことである。

ウ 一つ目の次元にあるのは、目的が設定されて成果が目に見えやすい「役に立つ」ことであり、もう一つの次元にあるのは、その目的自体を創造するが成果は目に見えにくい「役に立つ」ことである。

エ 一つ目の次元にあるのは、研究者や実践家を育てて社会に対して「役に立つ」ことであり、もう一つの次元にあるのは、その研究者や実践家が創造したグローバルな価値が社会に対して「役に立つ」ことである。

オ 一つ目の次元にあるのは、かつて有効だった成長期の価値にしたがって「役に立つ」ことであり、もう一つの次元にあるのは、現在のリサイクルを重視する価値にしたがって「役に立つ」ことである。

問四

空欄

X

に入るものとして、最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 価値創造型の有用性、「役に立つこと」は、新たな目的やそれ自体で価値をもつような活動を生み出しますが、やがてかならず自己完結して、形骸化したシステムを成立させてしまいます

イ 目的遂行型の有用性、「役に立つこと」は、新たな目的やそれ自体で価値をもつような活動を生み出しますが、やがてかならず自己完結して、形骸化したシステムを成立させてしまいます

ウ 価値創造型の有用性、「役に立つこと」は、与えられた目的や価値がすでに確立されていて、その達成手段を考えるには有効ですが、そのシステムを内側から変えていくことができません

エ 目的遂行型の有用性、「役に立つこと」は、与えられた目的や価値がすでに確立されていて、その達成手段を考えるには有効ですが、そのシステムを内側から変えていくことができません

オ 価値創造型の有用性、「役に立つこと」は、形骸化したシステムのなかで新たな目的やそれ自体で価値をもつような活動を生み出し、いずれシステムを内側から変えていくことができます

問五 傍線部4「それを考えるには、目的遂行的な知だけでは駄目です」とあるが、その理由を説明したものととして最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 目的遂行的な知は、短期的に成果を出すことを求められるが、価値の軸が短期的に変化していく現代では、多元的な視点をもつ価値創造的な知とも、歩調を合わせていかななくてはならないから。

イ 目的遂行的な知は、成長を前提とする価値観が当たり前だった一九六〇年代までは有効だったが、成長を疑う価値観が広がった二〇〇〇年代以降、価値の軸を問い直す価値創造的な知が有効になったから。

ウ 目的遂行的な知は、ウェーバーが洞察したように目的合理的なシステムである資本主義を生み出したが、そのシステムが空疎となったときは、価値合理性やカリスマといったものの力を借りるべきだから。

エ 目的遂行的な知は、目的がすでに設定されていてそれを達成するためには有益だが、その目的自体を問い直さなくてはならない状況で必要となるのは、違う価値の軸を見出せる価値創造的な知だから。

オ 目的遂行的な知は、その目的や価値の軸そのものが変わると有用性を失うため、長期的な視点をもつ価値創造的な知の力を借りて、価値の変化が短期的に起きないように努力していく必要があるから。

問六 傍線部5「理系的な知は役に立ち、文系的なそれは役に立たないけれども価値がある」という議論は間違っている」とあるが、そう言える根拠となる筆者の考えを、本文全体を要約して三十字以上、四十字以内で解答欄に記せ。ただし、句読点や記号も一字と数える。

〔三〕 つぎの文章を読んで、後の問いに答えよ。

さてまた、朱雀院すざくくわんも優やさにおはしますとこそは言はれさせたまひしかども、将門まさかどが乱みだなど出いでてきて、怖おそれ過あやごさせおはしまししほどに、やがて代しろはらせたまひにしぞかし。

そのほどのことこそ、いとあやしうはべりけれ。母后ははきさかの御もとに行幸ゆきせさせたまへりしを、^②「かかる御有様の思ふやうにめでたくうれしきこと」など奏そうせさせたまひて、「今は東宮とうきゆうぞかくて見聞けんぶんこえまほしき」と申まをさせたまひけるを、^③心もとなく急いそぎ思おもひ召めしけることにこそありけれとて、ほどもなく譲ゆずり聞きこえさせたまひけるに、后きさきの宮は、「さも思おもひても申まをさざりしことを。ただゆく末すえのことをこそ思おもひしか」とて、いみじう嘆なげかせたまひけり。

さて、おりさせたまひて後のち、人々の嘆なげきけるを御覽ごらんじて、院より后の宮に聞きこえさせたまへりし、国譲りの日、日のひかり出いでそふ今日のしぐるるはいづれの方の山辺やまのへなるらむ

后の宮の御返し、

白雲しらうみのおりる方かたやしぐるらむ④おなじみ山のゆかりながらに

などぞ聞きこえはべりし。院は数月かずつき、綾綺殿あやのりでんにこそおはしまししか。後は少し悔くやしい思おもひ召めすことありて、位にかへり即すなはかせたまふべき御祈いのりなどせさせたまひけりとあるは、まことにや。

御心ごこころいとなまめかしうもおはしましし。御心地ごこち重おもくならせたまひて、^⑤太皇太后宮たいくわうたいじゆうきゆうの幼わかくおはしますすを見たてまつらせたまひて、いみじうしほたれおはしましけり。

^⑥呉竹くれたけのわが世はことになりぬともねは絶たぎえせずぞなほながるべき
まことにこそかなしくあはれにうけたまはりしか。

〔大鏡〕より

【注】

*朱雀院 第六十一代朱雀天皇。

*将門が乱 天慶二(九三九)年から同三年にかけて平将門が起こした戦乱。

*母后 朱雀天皇の母。

*東宮 朱雀天皇の同母弟、成明親王。即位して第六十二代村上天皇となった。

*后の宮 「母后」と同一人物。

*綾綺殿 内裏の殿舎の名。朱雀院は讓位後、数か月間、この殿舎にいた。

*太皇太后宮 朱雀天皇の皇女、昌子内親王。

問一 傍線部①「代はらせたまひにしぞかし」の文法的説明として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 動詞＋使役の助動詞＋補助動詞＋格助詞＋過去の助動詞＋係助詞＋終助詞

イ 動詞＋補助動詞＋完了の助動詞＋動詞＋係助詞＋終助詞

ウ 動詞＋補助動詞＋格助詞＋尊敬の助動詞＋終助詞＋終助詞

エ 動詞＋尊敬の助動詞＋補助動詞＋完了の助動詞＋過去の助動詞＋終助詞＋終助詞

オ 動詞＋尊敬の助動詞＋動詞＋過去の助動詞＋動詞＋終助詞＋感動詞

問一 傍線部②「かかる御有様」の内容として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

- ア 朱雀天皇が皇位についていること
- イ 朱雀天皇が優雅な人であること
- ウ 朱雀天皇が自分のもとにやってきたこと
- エ 将門の乱が鎮定されたこと
- オ 母后が元気で過ごしていること

問三 傍線部③「心もとなく急ぎ思し召しけること」にこそありけれとて」の解釈として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

- ア 母后は、朱雀天皇が自らの即位を早くなしとげようと思っていらいっしやるのだ、とお思いになって
- イ 母后は、弟の東宮が自らの即位を熱望していらいっしやるにちがいない、とお思いになって
- ウ 東宮は、母后が朱雀天皇の一刻も早い退位を望んでいらいっしやるにちがいない、とお思いになって
- エ 朱雀天皇は、母后が弟の東宮の即位を待ち遠しく思っていらいっしやるのだ、とお思いになって
- オ 朱雀天皇は、弟の東宮が自らのすみやかな即位を望んでいらいっしやるにちがいない、とお思いになって

問四 傍線部④「おなじみ山のゆかり」とはどのようなことを意味しているか、二十字以内で説明し、解答欄に記せ。ただし、句読点や記号も一字と数える。

問五 傍線部⑤「呉竹のわが世はことになりぬともねは絶えせずぞなほながるべき」に込められている和歌の作者の気持ちとして最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 死の悲しみに堪えながらも、娘の将来にたしかな期待と明るい希望を見出して安らかな気持ちに浸っている。

イ 幼い娘を残していく悲しみに沈みながらも、自らの血筋が辛うじて続いていくことにかすかな慰めを感じている。

ウ 世の中がどのようなふうにも変わっても、娘と自分たちの一族だけは永遠に変わらぬ繁栄を手に入れることを確信している。

エ 世の中が衰退し、自らの出世も望めない中で、娘の行く末にも大きな不安を感じて悲しみにくれている。

オ たとえ娘の将来が不幸な事態に見舞われても、親として変わらぬ愛情を持ち続けていくことを誓っている。

問六 傍線部⑥「うけたまはりしか」の主語として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 朱雀院

イ 母后

ウ 東宮

エ 太皇太后宮

オ この話の語り手

問七 『大鏡』と同じく歴史物語に分類される作品をつぎの中から一つを選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 源氏物語

イ 平家物語

ウ 栄花物語

エ 宇津保物語

オ 雨月物語

つぎの問題〔四〕は、文学部を志望する受験者のみ解答せよ。

〔四〕 つぎの文章を読んで、後の問いに答えよ（設問の都合で返り点・送り仮名を省いた箇所がある）。

孔融字文举、魯国人、孔子二十四世孫也。融四歳、与兄食梨。

輒引小者。人問其故。答曰、小兒法当取小者。年十歳、随父詣京。

師河南尹李膺有重名、融欲觀其為人、遂造之。膺問高明父祖、

嘗与僕周旋乎。融曰、然。先君孔子、与君先人李老君同德比。

義、而相师友、則融与君累世通家也。衆坐莫不歎息。僉曰、異

童子也。太中大夫陳躡後至、同坐以告。躡曰、人小時了了者、

長大未必能奇。融応声曰、即如所言、君之幼時、豈実慧乎。膺

大笑、顧謂融曰、長大必為偉器。

〔世説新語「劉孝標注より」〕

【注】

*孔融 人名。後漢の人。

*京師 みやこ。

*河南尹 河南の長官。河南は行政区域名。

*李膺 人名。後漢の政治家・学者。

*高明 立派なかたという意味で、相手に対する尊称。

*周旋 かかわる。関係する。

*先君 自分の祖先。

*先人 祖先。

*李老君 老子をいう。老子の姓は李、名は耳。孔子が老子から礼を学んだという伝説がある。

*太中大夫 官名。皇帝のそばにいて相談にあずかる役。

*陳寔 人名。後漢の人。

*了了 賢いさま。

問一 波線部A「為人」B「然」C「則」の読み方を、送り仮名も含めてひらがなで解答欄に記せ。

問二 傍線部①「当取小者」をひらがなのみの書き下し文にして、解答欄に記せ。

問三 傍線部②「融与君、累世通家也」の解釈として最も適切なものを選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 私の家もあなたさまの家も何代も続いて政治家を出した家です。

イ 私はあなたさまとともに世にはびこる権勢家を打倒したいのです。

ウ 私はあなたさまの家と代々親しくつきあっている家の者なのです。

エ 私の家もあなたさまの家と同様に誇らしい祖先をもつ家です。

オ 私があなたさまに差し上げたいのは先祖伝来の家宝なのです。

問四 傍線部③「衆坐莫不歎息」の解釈として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア そこに居合わせた人でなげき悲しまないものはなかった。

イ 同席者の多くは讒言を恐れてなげくばかりであった。

ウ 多数の列席者のなかで安堵し喜ばないものはなかった。

エ 全員車座になり、議論をやめようとするものはなかった。

オ その場にいた者たちで褒めたたえないものはなかった。

問五 傍線部④「長大未必能奇」の書き下し文は「長大にして未だ必ずしも奇なる能はず」とであるが、これに従って、解答欄

の文に返り点をつけよ。

問六 傍線部⑤「即如所言、君之幼時、豈実慧乎」の解釈として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

- ア 仮にその話が本当だとすれば、あなたは幼いころ随分口達者だったことでしょう。
- イ もし仰せの通りなら、あなたは幼いころさぞかし聡明だったことでしょう。
- ウ 伝え聞くとところによると、あなたは幼いころとても親孝行だったのですね。
- エ 幼いころの発言をどうして恥じることがありましようか、その必要はありません。
- オ 世のうわさによると、あなたは幼いころとても利発で有名だったそうですね。

つぎの問題〔五〕は、経営学部・人間環境学部・GIS（グローバル教養学部）のいずれかを志望する受験者のみ解答せよ。

〔五〕 つぎの文章を読んで、後の問いに答えよ。

ザハ・ハデイド氏による新国立競技場案が物議を醸し始めた頃、私が最も望ましい解決策と考えていたのは、新たに建て替えること自体をやめて、既存の国立競技場を改修することでした。理由は三つあります。

1 一つは、それほど大きくない敷地に旧国立競技場の二倍もの建物を新築することに物理的に無理があること、二つめは、新築計画に盛り込まれているコンサートやイベントでの活用を重視するなどといった目的が、国立のスポーツ競技施設という目的と大きく乖離していること、三つめは——ここが本題ですが、Aです。

2 はつきり言いますが、建物は古ければ古いほど価値を増します。世界中のどの場所のどんな建物でも、多くの人々に長い間使われている建物ほど、その建物への理解が進み、親密度が増し、いろいろな思い出が宿り、風景の一部となり、街の顔になつていきます。

3 その証拠に昨今、もともと文化施設でもなく、ましてや芸術作品でもない、設計者すら分からないような産業遺産が、価値ある建築として見直されるようになっていきます。ある種の民具や骨董などと同様に、機能性や経済性だけを優先してつくられた建物が、時代を経ることで当初は想定していなかった美的価値すら見いだされるようになっていきます。^{*}「富岡製糸場」(群馬県)や「軍艦島」(長崎県)などがそうですが、それらの施設はある一時期に隆盛を極めながら消えていった絹産業、石炭産業の生産のために特化しただけの施設です。

4 ましてや、国立競技場のように、アジア初のオリンピックのメイン会場として使われ、スポーツの聖地とまで謳われ、多くの人々から支持や評価を受け、数多くの思い出が刻まれた施設ならなおさらでしょう。①それゆえ世界のオリンピック施設は、時代とともに機能が陳腐化しても、デザインや素材が古くさくなっても、手を入れ続けながら、不足部分を更新しながら、活

かそうとする傾向にあります。

5 　しかし現実には、「国立競技場は新築」という前提で早々と調整が進められ、改修という選択肢は、深い議論が尽くされぬまま消えていきました。

6 　なぜ、改修ではなく新築を選んだのか？ その背景にあるわが国独特の建築文化について、くしくも二人の外国人識者が同じ視点から指摘しています。一人めはフランス生まれのフィガロ紙記者、レジス・アルノー氏がニューズウィーク日本版サイトに寄稿したものです。

日本の進むべき道を知りたいなら、京都の古い通りを歩いてみるといい。知り合いのホテルチェーン社長によれば、路地を散策する観光客の数は昨年に比べて7割も増えているという。世界を驚かせるのは、東京ではなく京都だ。「先斗町ほんとうちょうの通りは今や外国人だらけ。彼らはレストランやお店、ホテルの生命線だ」と、この社長は教えてくれた。

アルベール・カミュは、57年のノーベル文学賞受賞演説でこう語った。「どの世代も、自分たちは世界をつくり直すことに身をささげていると信じているだろう。だが私の世代は、自分たちがつくり直すことはないと知っている。私の世代に課せられた任務はもつと大きなものだ。それは世界の解体を防ぐことにある」

これこそが、現代の東京人に課された義務ではないかと私は思う。

7 　二人めは日本文化の研究者で、『犬と鬼——知られざる日本の肖像』などの著作でも知られるアレックス・カー氏の講演録の一部です。カー氏は日本の小さな寒村や離島に残る生活資源の活性化、再活用による景観維持にも取り組まれている方です。まだ日本各地に茅葺かぶき屋根の建物が数多く残っているながら、徐々にそれらがうち捨てられようとしていた今から四〇年以上も前に、その価値に気づき、徳島県の祖谷いづ溪谷や京都府の古民家を購入し、修復しながら長年住んでいるという、筋金入りの昔の日本びいきの方でもあります。

8

私が実際に現地を訪れ、特に感激したのは、五島列島(長崎県)の北端にある小値賀島おぢかです。人口三〇〇〇人に満たない小さな島ですが、その歴史は古く、鎌倉時代から江戸時代に至るまで重要な漁港として栄えました。近世は鯨漁や酒造りで富を成した商人も多く住み、漁港を中心に江戸時代さながらの雰囲気を残すところです。引用した講演録は、そんな小値賀島を訪れたカー氏が、過疎化の進む島に残されていた一六〇年前の藤松という商家の再生を軸に、民家を徐々に改修し宿泊施設として活用しながら、島に観光産業を根づかせようという取り組みについて語ったものです。カー氏は、こう言っています。

ヨーロッパで古い街並がそのまま残っているのは、人々が観光客向けにそうしているわけではないのです。まず、(古いものを尊重する)「態度」があつて、古い建物を保持するための条例が作られている。(中略)日本には、最新の技術を見せたという、いわば高度経済成長時代の価値観がまだなおあります。できるだけ大きく、人をあつと言わせる技術で作るべきだという価値観です。(中略)私の師匠である白洲正子さん——8年くらい前に亡くなってしまいました——、彼女の東京玉川にある自宅に、こんな短冊が飾ってありました。「犬馬難、鬼魅易」——これは、絵を描くときに、B——と。 (中略)想像にまかせて巨大でグロテスクな建築物を造るのはたやすいこと。本当に守らなければいけないものは身近にある、何でもない景観なのではないか。この言葉は、日本の景観を考える上で重要な言葉なのではないかと思っています。

9

アルノー氏の提言もカー氏の考察も、建築や景観に対する日本人の鈍感さを見るに見かねてのものと推察されます。理知的な言いまわしではありますが、一方で「もう黙って見ちゃいけない」という苛立ちも伝わってきます。「なぜ、日本人は古くなったものを壊してばかりいるのか」。二人が苛立つ原因はここに集約されそうですが、その理由を私なりに分析すると、すべては建築業界特有の進歩主義(新しいものは良いものだという態度)にあると言えそうです。

10

高度経済成長期に日本の土木・建築業界を席卷した進歩主義は、その後、環境・経済・価値観の変化などにより少しずつ時代と齟齬をきたすようになっていきました。いまでは、新しいものほど良いものだという価値観に手放して賛同する人は少な

いのではないでしょうか。

- 11 しかし、建築関係者の多くはなかなかその現実に向き合えずにいます(個人としては賛同しているのかもしれませんが)。古いものを壊し、最新の技術で新しいものにつくりかえるのが自分たちの使命と信じています。関東大震災を機に建設され、都心にもかかわらず緑に囲まれたコミュニティを形成しつつあった「同潤会アパート」の建て替え、多くの文化人や政財界の重鎮、海外の著名人からも疑義を投じられた「ホテルオークラ」の建て替えなどが、それを象徴しています。

- 12 断っておきますが、私は新築全般を批判しているわけではありません。土木・建築業は人々の暮らしを災害から守り、雇用、交通、流通まで含めて国民生活全般を一定の水準に保つ役割を常に担っています。古くなった建物やインフラを最新の技術で更新し続ける必要性は、あらためて指摘するまでもありません。ただ、最新の技術は最新の意匠(デザイン)とセットで持ち込まれるべきと考えているのだとしたら、それは建築関係者たちの勝手な思い込みです。

- 13 最新の意匠(デザイン)とは、言い換えれば只今現在の流行に過ぎません。一時代の流行ですから、ファッションやヘアスタイルと同じように時間が経てば古くさくなります。にもかかわらず、事業計画を統括するリーダーたち、建物の設計を担う建築家たちは、「世界をつくり直す」のが自分たちの責務と信じ、「何でもない景観」を流行のデザインや「巨大でグロテスクな建築物」で制圧することをやめません。その発想に、世間との大きなズレが生じているのです。国立競技場もその犠牲になりました。

- 14 では、そもそも建築関係者の多くが、最新の技術には最新の意匠がともなわなければならないと思ひ込む根拠はどこにあるのでしょうか。外観は慣れ親しまれた姿のまま、中身だけ新しい技術で更新することは許されないのでしょうか。

- 15 実はこの問いにこそ、わが国において「グロテスク」な建築、どや顔をした建築が次々と生み出されていく理由を解き明かすカギが隠されています。そのカギとは、多くの建築家の脳内を蝕んでいる「オリジナル幻想」です。

- 16 ここでいうオリジナル幻想とは、「とにかく新しく独創的なものをつくらなければならない。独創的でなければ誰からも評価されない」という強迫観念をいいます。「幻想」ですから実在する要求ではありません。建築家以外の関係者は誰一人独創的

なものなど望んでいなくとも、自発的にそのような目標設定をしてしまうのです。特にバブル期以降に活動を始めた建築家の多くが、このドグマに侵されています。

(森山高至『非常識な建築業界「どや建築」という病」より。文章を一部改変した)

【注】

* 「富岡製糸場」(群馬県)や「軍艦島」(長崎県) それぞれ、ユネスコの世界文化遺産に登録されている。

* ドグマ 独断的な説。本来は教義、教理を指す。

問一 本文を文章構成上、三つのまとまりに分けるとすると、第二・第三の部分の始まりは、それぞれ [1] からとするのが適切か。その組み合わせとして最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 4・9 イ 5・11 ウ 6・14 エ 9・12 オ 10・15

問二 空欄 A に入る最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 数多い新築反対の声にはもつともな理由があり、無視できないから

イ 新築よりも既存の改修が望ましいというのが世論であるから

ウ 使われた歴史がまだ浅く、今後真価が出てくる建物だから

エ 建物の価値は時間が経つに上がってくるものだから

オ 建物の価値を決めるのは意匠の新しさではなく世間の好感度だから

問三 傍線部①「なおさらでしよう」はどのような内容を指しているか。その説明として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 工場や鉱業施設の無機質性にさえも芸術的な美を見出す近年の評価の潮流を思えば、文化の香り高きオリンピックの舞台となった国立競技場はなおさら、今後いつそう美的価値を増す可能性が高い。

イ 工場や鉱業施設でも、長い年月使われ続けたことで産業遺産になる例があることを思えば、スポーツ祭典の聖地として多くの人々の思い出が詰まる国立競技場は、なおさら街の顔としてかけがえない価値を持つ。

ウ 機能的・経済性に特化して建てられた工場でさえ、見学者に親しまれ続けたことで文化遺産となったことを思えば、人々の甘美な思い出がより多く刻まれた国立競技場は、生きた記憶の劇場としてなおさら魅力的な価値を持つ。

エ かつては公害をおこす負の存在だった工場や鉱業施設でさえ、取り壊さずに改修して保全すれば文化財となることを思えば、人々に親しまれた時間がより長い国立競技場は、なおさら尊い文化遺産となる資格を持つ。

オ 訪問に不便な地方にある工場や鉱業施設でさえ世界遺産になっていることを思えば、東京の中心部に立地して多くの人を集めやすい国立競技場は、なおさら国の首都を代表する風景として貴重である。

問四 傍線部②「二人の外国人識者が同じ視点から指摘しています」とあるが、つぎのA～Oが、その二人に共通する見方であると判断できる場合は解答欄の1を、共通するとは判断できない場合は2を、それぞれマークせよ。

A 京都の建築家は、巨大な建築物を次々に建てる東京の建築家よりも優れている。

イ 日本人は、暮らしの身近にある歴史的な景観の価値に気付いていない人が多い。

ウ 古い建物を昔のまま保存し外国人を集客する政策が、今後の日本の生命線となる。

エ 進歩とは、既存のものを壊し新しいもので置き換えることであるとは限らない。

オ 住民が古い街並みを尊重する態度は、観光による地域活性化にも有効である。

問五 空欄

B

に入る最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

- ア 犬や馬のように自分の身近な存在は描きがたく、グロテスクで想像の産物である鬼は描きやすい
- イ 犬や馬のように平凡な動物は画題に不適で、良い絵になるのは豊かな想像力が働く鬼のような素材である
- ウ 犬や馬のように家族同然の存在こそ素材として捨て難く、架空の派手な存在は思いのほか飽きやすい
- エ 犬や馬は容易に描けるので避け、化け物のような恐ろしい存在を親しみ易く描いてこそ優れた絵になる
- オ 犬や馬のように慣れ親しんだ素材だけでなく、鬼のようにグロテスクな存在も描くことで、絵に深みが増す

問六 傍線部③「世間との大きなズレ」とあるが、その説明として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマーク

せよ。

- ア 世間は、見た目の良さよりも、災害に強く実用的で質素な建築を望んでいるのに、建築家たちは外観の目新しいデザインと新奇な技術ばかりにとらわれていること。
- イ 世間は、環境面や経済性を最優先し、歴史のある建築を壊すことを望んでいないのに、建築家たちは費用を無視して壮麗な新築にのみ執心していること。
- ウ 世間は、身近で等身大のもの、何でもないものへの愛着が強いのに、建築家たちは競技場兼イベント施設などの巨大で人目を惹く複合施設を作りたがること。
- エ 世間は、経済性を満たし環境にも配慮した新築を望んでいるのに、建築家たちはいまだに高度成長期の考え方に支配され、流行に遅れた建物しかつくりたくないこと。
- オ 世間は、必ずしも最新の意匠による建築を望んでいないのに、建築家たちはそれにより建て替えていくことこそが価値ある独創だと思いついでいること。

問七 筆者は、これからの日本の建築文化のために、どのような考え方が望ましいと論じているか。つぎの形式にしたがって三十五字以上、四十五字以内にまとめ、解答欄に記せ。ただし句読点や記号も一字と数える。

という考え方。



